

## 手塚治虫作品…別冊『サボテン君！銃をとれ』の語註釈

この作品は、雑誌「少年画報」第五卷第九号・九月号第一ふろくとして、B五横版にして二三〇コマでまとめ上げた作品である。西部活劇漫画に欠かせない鉄道・馬車そして銃の名さばきは必須の条件なのである。この作品の副題ともいう「銃をとれ」とあって、冒頭部に登場する「鉄道開通記念射撃大会」の決勝で、勝った者が射撃の名人位を獲得するのだという具合である。この長い漢字での物言いを「射撃開通記念鉄道」と喋り、言い直す。この市長の挨拶語の一声は、「オッホン」と咳払いした後に、「淑女並紳士諸君しめくじよならびしんしよくん」と始まる。パセリー一家の牧童ブライアンとフォスター一家三男坊ボビーの決勝戦がはじまるのだ。打ち合う標的は、ゴム風船に帽子を被らせ目鼻口を線画で描いたものを空中に飛ばしてこれをすかさず打ち落とす。この結果

、ブライアン十一、ボビー十二で勝ちが決まったがこれでこの両家の対立は本格化していくというのが物語の展開を創り上げていくのである。

ここに「サボテン君」が鉄道事故の真相を解決するために動きだしていくことになるのだ。彼のほんみよは、「本名は、サム・シャッド」と申しまして、私の町のミルクホールにいるんですが、西部きつてのピストルの名人ですぞ」「26齣」。「しかしサボテンは一面お人よしで、あわて者で、かんげきや



なんです。彼をドンゴロスまでいかせれば、彼はきつと闘います」「あの子はミルクさえのませば、ぜつたいに敵にひけはとりません」「だが、私はサボテンをむりにつれだしはしません。じきをまっしてせんにドンゴロスへいかせるようにしたい」「27齣」と語られます。西部きつての拳銃の一番旨いのは誰かと列車客の会話表現をまず見ておこう。

## ことばの表現

## ①並べ立て人名

○「まず、ワイアットアープだ。あいつは役人になってから敵う賊はないよ」「そうさなア、あいつは、りこうだからなア」「二ばんは？」

「ジェシイ・ジェムスだ」「三ばんは？」

「バッファロー・ビルさ」「四ばんは？」

「ビル・ヒコック」「五ばんは？」

「ゲイリー・クーパー」

「むねにてをあてて、よく、おかんがえあそばせな」

「おっと！おくさん。すまねエ、すまねエ、たったひとりわすれていましたぜ」

「つよいのなんのつてね。あんなにつよいのはないヨ。」「サボテン。こいつが一ばんだ」

②語彙「ひんぴん【頻頻】」

○「どうもけしからぬ、ひんぴんとしておこる鉄道事故は、なにが原因なのか、さっぱり、わからん！」  
〔22コマ〕

とかな書きで示す。小学館『日本国語大辞典』第二版に、

ひん-ぴん【頻頻】「形動ナリ・タリ」相互に関連のあることが引き続いて、しきりに起こるさま。

副詞的にも用いる。\*四河入海〔二七〇前〕一三・三「野鷹は頻々に鳥とつれてはなぜに噪ぞと云ぞ」

\*経国美談〔一八八三〜八四〕〈矢野龍溪〉後・一四「私見内会斯の如く頻々なりしと雖ども」\*内

地雑居未来之夢〔一八八六〕〈坪内逍遙〕三「近来醸酒場を頻々設置し」\*銀座川〔一九五〇〜五一〕

〈井上友一郎〉序「何しろ好江のもとへやってくるのが頻々たるものだから、よく知らない人たちは、野辺地を好江の亭主のやうに思つてゐる」\*杜甫・秋日題鄭監湖亭詩「賦詩分氣象、佳句莫

頻頻」【発音】〈標ア〉「〇」〔ピ〕〈京ア〉「〇」

室町時代の禪籍抄物『四河入海』が初出用例であり、手塚はかな表記語で「ひんぴん」と記載して

いる。

③慣用句「むかしとったきねづか【昔取った杵柄】」

●「これでも、むかしとったきねづかじゃ！」〔41齣〕

小学館『日本国語大辞典』第二版に、

むかしとった杵柄 過去に鍛えた腕前。昔、修練して腕におぼえのある技量。

\*雑俳・柳多留・二一〔一七八六〕「むかしとったるきねづか」としわすれ」

\*人情本・縁結娘色の糸〔二八三九〜四八〕四・二四回「昔取った杵柄で、火の起し按排は妙だ」

\*こがね丸〔一八九一〕〈巖谷小波〉七回「有漏覚えの舞の手振、又は綱渡り籠抜けなどと、古し取

たる杵塚の」【発音】〈標ア〉「ト」＝「〇」〔ト〕＝「ネ」

④なむさん【南無三】

●「ナムサン、もうたまがない」〔175齣〕

小学館『日本国語大辞典』第二版に、

なむ-さん【南無三】「感動」(「なむさんぼう(南無三宝)」の略)「なむさんぼう(南無三宝)①」

に同じ。\*狂言記・磁石〔二七〇〇〕「南無さん、よいの相談をきいたかしてのいた」\*浄瑠璃・生

玉心中〔一七一五か〕中「なむ三、帯が切れたか」\*黄表紙・敵討義女英〔一七九五〕上「わかだん

なさまア。なむさん、切れきった」【発音】〈標ア〉「ナ」〔〇〕〈京ア〉「〇」【辞書】へボン【表記】【南

無三】へボン

⑤カタカナ表記語の会話

●「ウフア!! ファンナフオト ヲ ファイワフニ ファオファイテ フファイイ!!」

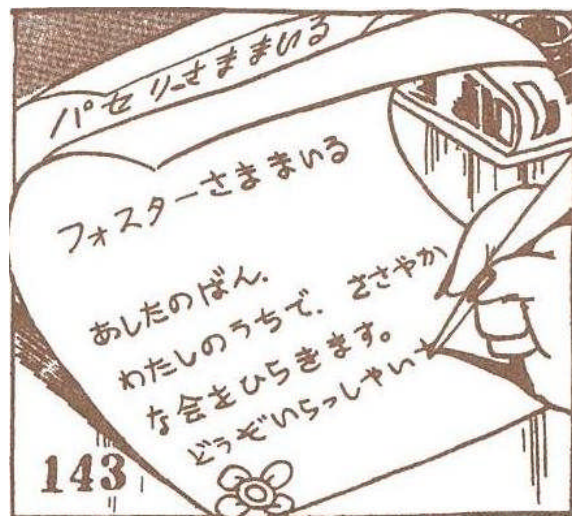


とあって、「フ」の音が語頭に表現されているこの会話表現は、サボテン君が口中を蜂に刺されて口がきけない状況にあり、ドクター・デコンに縋る様で用いられているが、その語る意味内容には読者には解釈できないことばの羅列としかとれない状況にある。





### 画像の表現



### 手書き表記文字

樹木の幹に縦書きの文字「今日はサボテン君の家である」とし、さらに横書きにて「今日はあっかさんのたんじょう日」と見えている。

パセリーさまいる  
 ふおすたーさまいる  
 あしたのばん、わたしのうちで、さ  
 さやかな会をひらきます。どうぞいら  
 つしやい(な)。「143齣」  
 横書きの夫人が書き綴っている手紙  
 は、「会」の文字だけが漢字表記であ  
 って、他はすべてひらがな書きをもつ  
 て記載する。

### ①自画像の差し込み

「キミキミ、こまるねえ。こんな所で、おわりにしちゃって……」「手塚治虫」

「いけませんか」「ブライアン・220齣」

「悪人は、むかしからさかえないことになってるんだ」「手塚治虫」  
 「うわーッ、それじゃ、うかばれないヨッ」「ブライアン・221齣」

※ここで自画像を観察して見て、何かお気づきになりましたか？そのです。手塚さんの目が書き込まれていません。なぜ、手塚さんはご自分の画像描写に目を書き込まないのでしょうか？皆さんのご考察をお待ちします。デスクッションをしていきましょう。ベレー帽に眼鏡、右耳に漫画筆記用ペンをかけ、長袖のシャツにズボン姿といった普段着の彼がこうして何気なく登場しているほのぼのとした場面がここにはある。

「THE END」のブロック型の文字を自ら広い片付けるといふ動作が妙趣なのだ。



そして、残り半ページを使い、サボテン君がブライアンの拳銃を打ち落とし、さらに素手で彼を殴り倒す。

ここに☆が二つ、なんとも表現しがたい画像がここにその時間を超越し、先へと齧送りしていく。次に頭れる世界は、無くなつたデューン先生の墓に参るシーンのあと、この町の人たちの集いのなかを走り去るサボテン君がいる。

この上記の画像をどのように観るのか？ここも考察の対象としたい。